

# 日米医学医療交流財団 研修助成

## 研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年11月3日

氏名 (フリガナ)	永田 律子 (ナガタ リツコ)
研修名・研修地	アメリカ短期看護研修 (アメリカ・オレゴン州ポートランド市)
研修期間	2014年10月12日 (日) ~ 10月18日 (土)
所属機関名 身 分	東京女子医大東医療センター 救命 ICU 看護師

今回、アメリカ短期看護研修に行かせていただき、日本以外で医療体制を見ることができた。

まず、日本と保険の制度が異なっていた。保険で、受けられる病院が決まっていた、患者が病院を選ぶことができる体制となっていた。患者が病院を選ぶことができるため、病院も患者に選んでもらうよう努力が多く見られた。医療に対する1人1人の意識も高かった。

その一つとして、マグネットホスピタルの認証があった。この認証は人間関係や感染面など幅広く審査されるもので、審査官も隔まで調査するため、実際認証されている病院はスタッフ同士のコミュニケーションやカンファレンス方法に優れていたと感じた。日本でも制度として確立して欲しいと感じた。

環境についての違いでは、キリスト教が多いことから礼拝堂が病院内にあり、いつでも礼拝できるようになっていた。また、歩いていけない患者に関しては生中継にて見られるようになっていた。

病室は基本個室でプライベートが守られていた。家族面会に対しても24時間対応で家族用ベッドや食事に関しても過ごしやすいう家族に対するケアが充実していた。医療機器など設備に関しても、その科に合った必要物品が揃っており、ロスケア、処置などスムーズにできるようになっていた。スタッフも多く、分業化、チーム化していた。

尊厳死について、今回講義を受けることができた。尊厳死は世界でもまだ定着しておらず、実際行っている国で講義を受けられたことで問題点と課題、傾向を知ることができた。今後、尊厳死が認められていく中、この問題は答えが無いので、どのように向き合っていけばよいか考える機会となった。

今回実際に現地研修することで、多くの学びができました。有難うございました。